

まだ書きたいことが一杯ある・・・・・・・・・・・・・・・・・・

150

萩原良昭

まだ書きたいことが一杯あるが

二月三日 月曜日

まだ、書きたいことが一杯あるが

中書島で急行を待つ。

雪が降る。

手すりに、カバンを押しつけ、
体をもたれかける。

寒い。

空に舞う雪を見る。

カバンに雪が落ちる。
黒いカバンに白い雪。

ちっちゃな雪の結晶が、しばらく、
静かに、カバンの上で休んでいる。

それも、つかのま、すぐ消える。

僕はじっと見ていた。

何だか、さみしい思い。

雪は瞬間を生きる生命体。
雪の結晶が美しくカバンにとまる。

ほんのつかのま、その形を保ち、
すぐに、消えて、水つぶとなる。



150